

参考資料3 優良施策一覧表（海外）

海外の取組事例

No.	施策類型	国	都市	実施主体	対象	その他	取組事例	情報源
1	平時及び緊急時の適切な情報提供 (媒体の工夫)	米国		自治体	一般市民		<ul style="list-style-type: none"> ・2018年7月30日のNational Heatstroke Prevention Dayに合わせて、朝の7時からツイッターで熱中症対策のヒントや啓発メッセージを投稿、ハッシュタグ #heatstrokekillsや#checkforbabyで拡散 ・職場や知り合いの友人等に15～30秒程度の熱中症リスクに関するビデオ作成とSNSへの投稿、拡散を呼び掛け 	National Highway Traffic Safety Administration https://www.nhtsa.gov/press-releases/consumer-advisory-heatstroke-prevention-day-july-31
2	平時及び緊急時の適切な情報提供 (内容の工夫)	米国		自治体	一般市民		<ul style="list-style-type: none"> ・炎天下の赤ん坊の車への置き去りによる熱中症事故を防ぐための啓発活動や情報提供を行っている。 ・後部座席のチャイルドシートには動物のぬいぐるみ等を備え、赤ん坊が乗っている際には前方座席にぬいぐるみを移動させることで視覚的なリマインダーを作り、置き去りを予防する) ・車の中に一人で子どもが乗っているのを見かけたら911に通報する 	National Highway Traffic Safety Administration https://www.nhtsa.gov/press-releases/consumer-advisory-heatstroke-prevention-day-july-31
3	平時及び緊急時の適切な情報提供 (内容の工夫)	米国		旅行保険協会	旅行者		旅行者を対象に、ホームページ上で旅行先での熱中症予防方法について助言している。	US Travel Insurance Association http://trip.ustia.org/health/articles/1259/how-to-prevent-heat-stroke-when-traveling/
4	平時及び緊急時の適切な情報提供 (方法の工夫)	米国	ニューヨーク	自治体	一般市民		熱中症のハイリスクグループ(老人や貧困層、慢性的な疾病を患う人々)熱中症リスクを把握する。「Be-a-Buddy Program」として、熱中症のハイリスクグループに対しても命を守る方法を共有する運動を促している。	United States Environmental Protection Agency https://www.epa.gov/arc-x/new-york-city-adapts-deal-projected-increase-heat-waves
5	ハードの整備 (緑化)	米国	シカゴ	自治体	開発事業者、家主等		公的なFundを用いて商業施設の屋根の緑化を促進、また、グリーンインフラストラクチャーの適用においては補助金やインセンティブをつける等で緑化を促進	United States Environmental Protection Agency https://www.epa.gov/arc-x/chicago-il-uses-green-infrastructure-reduce-extreme-heat